

2026年3月期第3四半期 決算説明会



～人々の健康と豊かな暮らしのために～
<https://transgenic-group.co.jp>

2026年2月10日
株式会社トランスジェニックグループ

注：当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した経営計画に基づき作成しておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。また、今後の当社の経営成績及び財政状態につきましては、市場の動向、新技術の開発及び競合他社の状況等により、大きく変動する可能性があります。

I.	2026年3月期第3四半期連結決算概要	・ ・ ・ 2
II.	創薬支援事業の状況	・ ・ ・ 4
III.	投資・コンサルティング事業の状況	・ ・ ・ 8
IV.	2026年3月期連結業績予想	・ ・ ・ 12
V.	その他	・ ・ ・ 14



I . 2026年3月期第3四半期連結決算概要

当第3四半期連結業績は、創薬支援事業の増収、投資・コンサルティング事業の堅調な推移を受け、売上高が微減の中、損益は大幅に改善し黒字転換。

●創薬支援事業

前年同期比で17.2%の増収と事業運営合理化によるコスト削減で損益は2億円強の大幅な改善。

●投資・コンサルティング事業

前年同期比で3.8%の減収だったが、損益は価格交渉等による粗利率改善等により1.4%の増益。

売上高 9,695百万円 前年同期比 \triangle **112百万円**

前年同期	9,807百万円	\triangle 1.1 %	\triangle 112百万円
創薬支援事業	1,435百万円	+17.2 %	+210百万円
投資・コンサルティング事業	8,265百万円	\triangle 3.8 %	\triangle 322百万円
本社・連結調整	\triangle 5百万円	- %	0百万円

経常利益 93百万円 前年同期比 **+** **255百万円**

前年同期	\triangle 162百万円	- %	+255百万円
------	--------------------	-----	---------

営業利益 104百万円 前年同期比 **+** **230百万円**

前年同期	\triangle 126百万円	- %	+230百万円
創薬支援事業	\triangle 126百万円	- %	+203百万円
投資・コンサルティング事業	369百万円	1.4 %	+5百万円
本社・連結調整	\triangle 138百万円	- %	+22百万円

親会社株主に帰属する

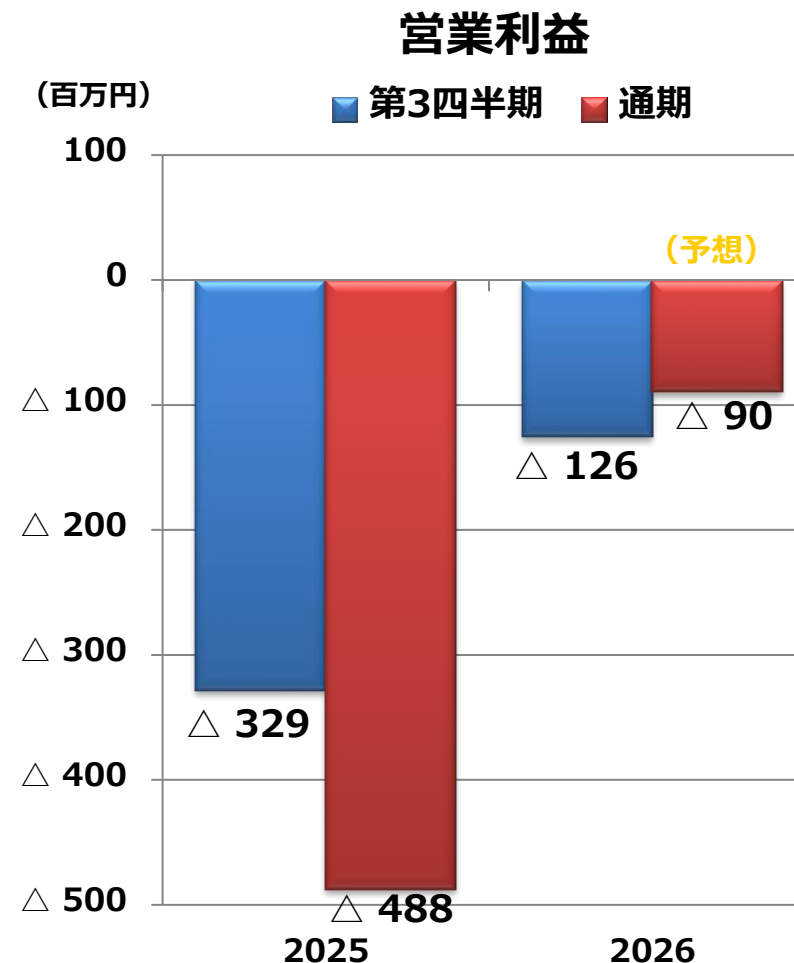
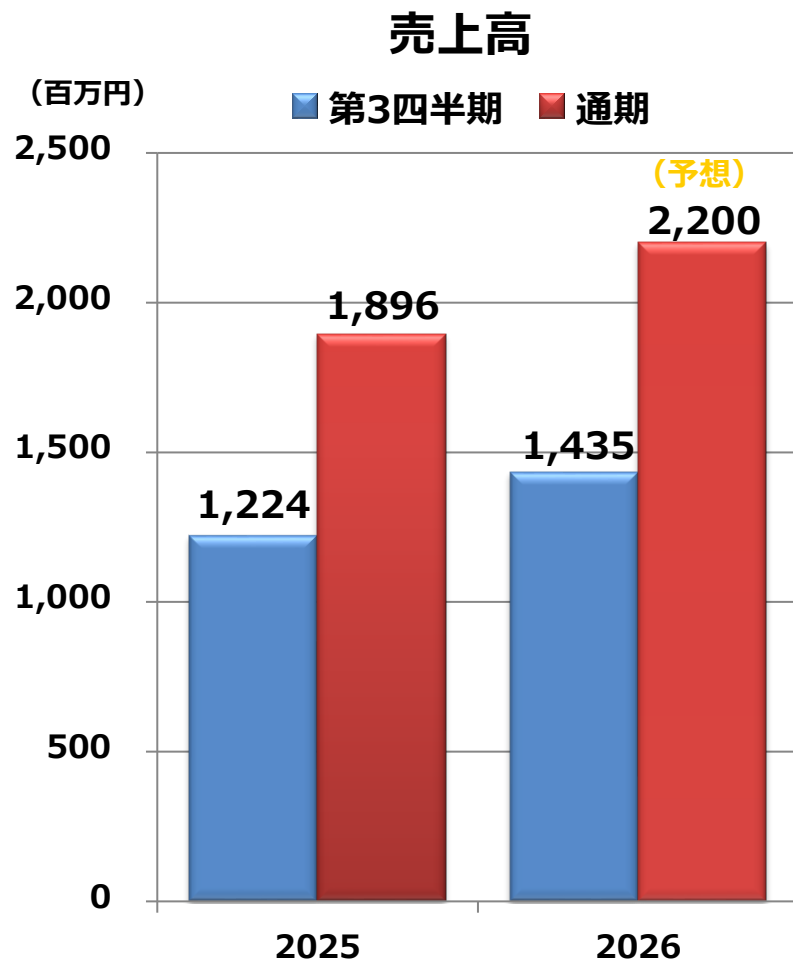
四半期純利益 28百万円 前年同期比 **+** **319百万円**

前年同期	\triangle 291百万円	- %	+319百万円
------	--------------------	-----	---------



Ⅱ．創薬支援事業の状況

- 前年同期比で17.2%の増収と事業運営の合理化による費用削減の結果、前年同期比で損益は2億円強の大幅改善。
- 創薬支援事業の第4四半期売上見込みは約8億円強だが、試験中止、期ズレ等のリスクを勘案し売上・利益予想は据え置きとする。



1. 概要

2025年6月20日に公表した通り、2022年3月期から2024年3月期にかけて、トランスジェニック磐田研究所で実施した受託試験の一部について、職員一名（以下、「当該職員」という）による試験データの不正行為（以下、「本件不正」という）が判明。本件不正を受け、関係する各当局の調査官、並びに外部の専門家（弁護士）による調査と検証作業の結果、本件不正は当該職員が単独で行ったものであり、その所属部署を含め、他の職員及び組織としての関与はなかったものと認定された。

2. 本件不正の原因分析及び再発防止策

本件不正を受け、トランスジェニックはその原因分析を行った結果、当該職員個人の資質による部分が大きいと考えられるものの、部署内のコミュニケーション不足や、DI（Data Integrity：データの完全性）対応の遅れがあると判断し、関係当局からの指導、及び外部専門からの提言も踏まえ、以下の再発防止策を策定し、関連するSOP（Standard Operating Procedure）の改訂を実施した。

No	再 発 防 止 策
1	各部門の情報共有及び組織風土の改善
2	教育体制の見直し
3	DI対応の強化：2名体制での操作実施、休日における抜き打ち確認、SDMS（Scientific Data Management System）の導入
4	QAU（Quality Assurance Unit：信頼性保証部門）の試験調査方法の見直し

3. PMDAによる施設適合性に関する調査結果

上記の再発防止策を講じた上で、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）により実施された今回のGLP適合性調査において、2025年12月16日にPMDAより**医薬品、医療機器及び再生医療等製品GLP省令への適合**が認められた。

— 遺伝子改変動物を核とした新たな非臨床評価体系の確立 —

● 目指す姿（Vision）

「分子・細胞・個体の知を統合し、科学的妥当性と倫理的持続性を両立する、非臨床評価の新基準・システムを創出」

● TGの強み（Strength）

- ・ 遺伝子改変マウスを活用した **in vivo薬理・毒性試験（GLP対応）**
- ・ rasH2短期発がん性試験・中期発がん性試験の進化・高度化
- ・ サル試験代替が可能な“ヒト相関性”の高いモデル動物の開発



● 協議中スキームの全体像（Image）

1. 核酸合成・CMC支援（HSS）
2. ヒト細胞を用いたin vitro薬理評価（ACEL）
3. **TG：ヒト型マウスを用いたin vivo 薬理・毒性試験**
4. 統合評価（ICH S6(R1)準拠・PMDA等の当局対応）
⇒ サルを使わず、分子～GLP毒性まで一貫した評価を可能に



核酸医薬だけでなく抗体医薬、再生医療分野など、ヒト特異性薬剤への適用拡大

● 期待効果と社会的インパクト(Project Impact and Social Impact)

- ・ 科学的信頼性：ヒト外挿性の高い非臨床データの創出
- ・ 倫理的正当性：サルを用いない動物実験体系を確立
- ・ 産業的重要性：核酸・抗体・再生医療分野の非臨床試験基盤を支援



背景（市場及び機会）

- ・ ICH S1B(R1)により短期発がん性試験の国際的需要が拡大
- ・ サル実験制限の潮流（EU/日本学術会議方針）
- ・ 核酸医薬・抗体医薬の非臨床課題＝「ヒト特異的薬理作用をどう検証するか」→TGが持つヒト化マウス技術が転換点となる

顧客層	提供ソリューション	期待される効果
アカデミア・スタートアップ	IND取得and/or導出対応パッケージ	データー貫化・早期申請and/or導出支援
バイオベンチャー	TG動物＋免疫毒性＋デリバリー評価	コスト・期間を削減
製薬企業	サル代替評価プラットフォーム	科学的信頼性＋倫理対応

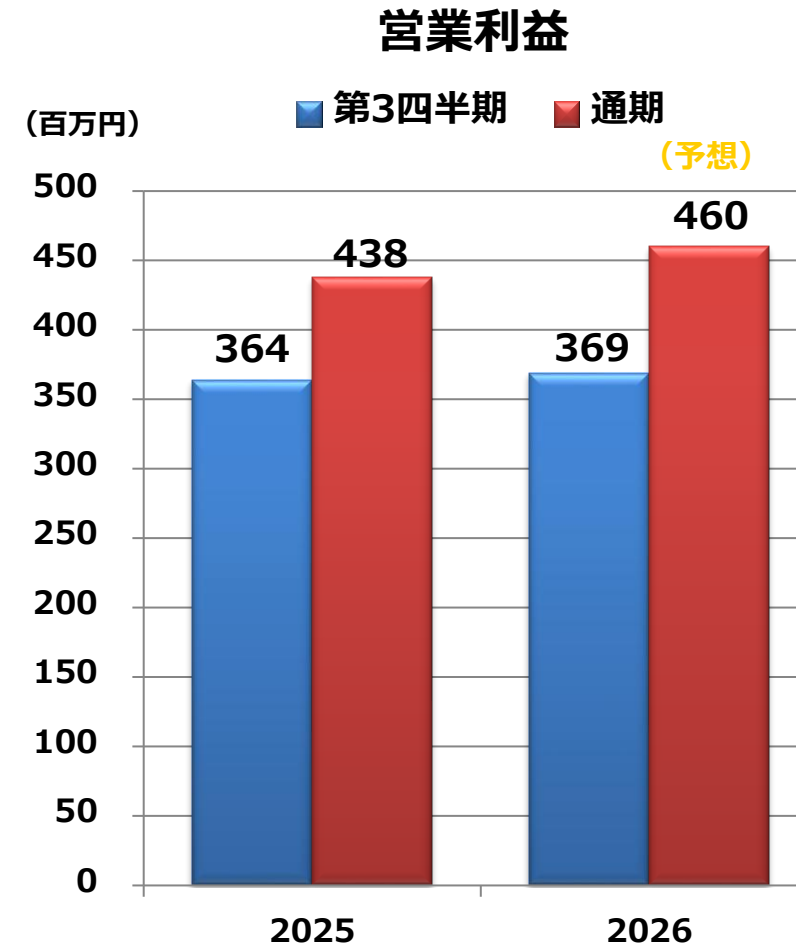
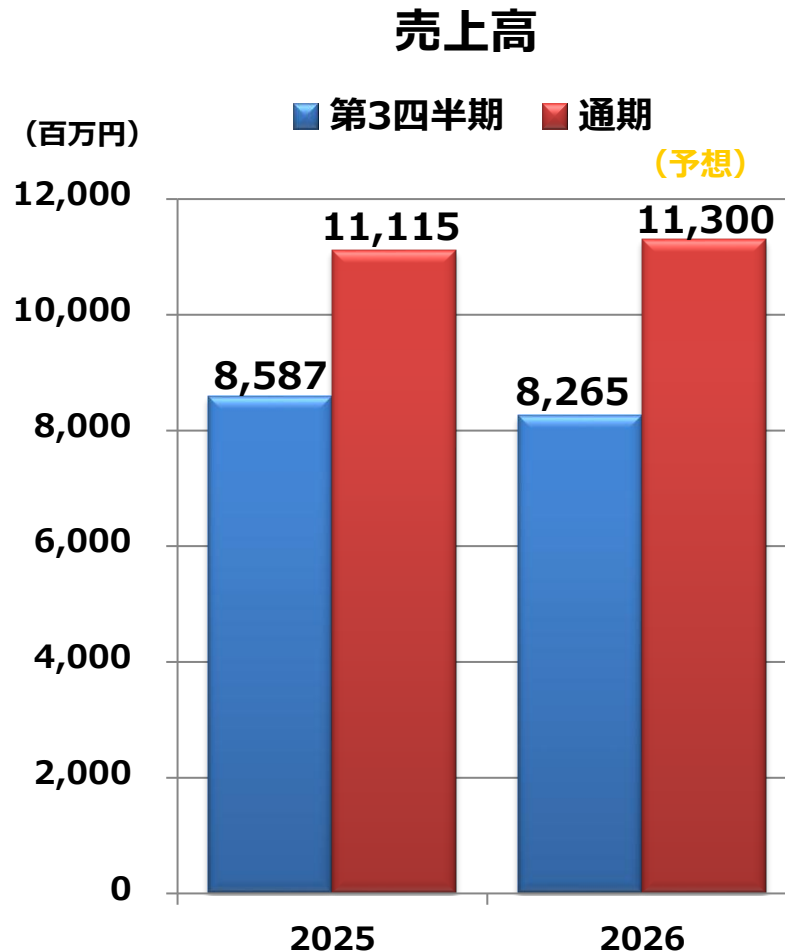
今期売上予想22億円の創薬支援事業を、今後3か年で、TG社を中核に売上30億円規模まで拡大させ、以降も持続的成長を実現

「科学的評価の創出企業」への転換を行い、社会・産業・科学が求める存在に

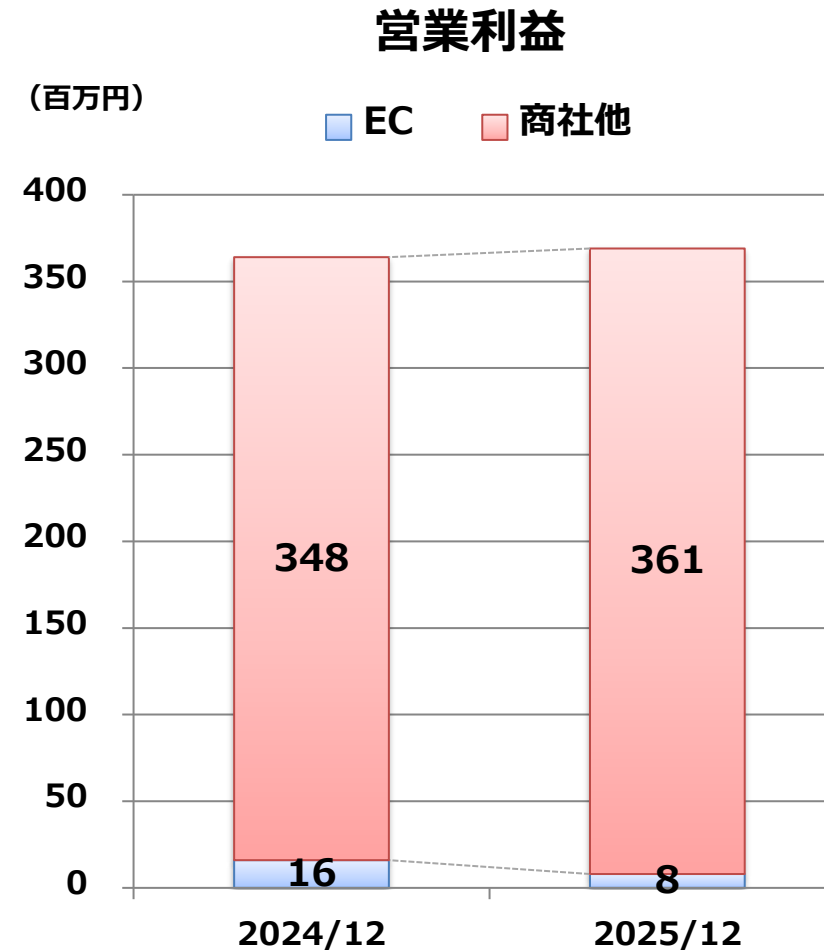
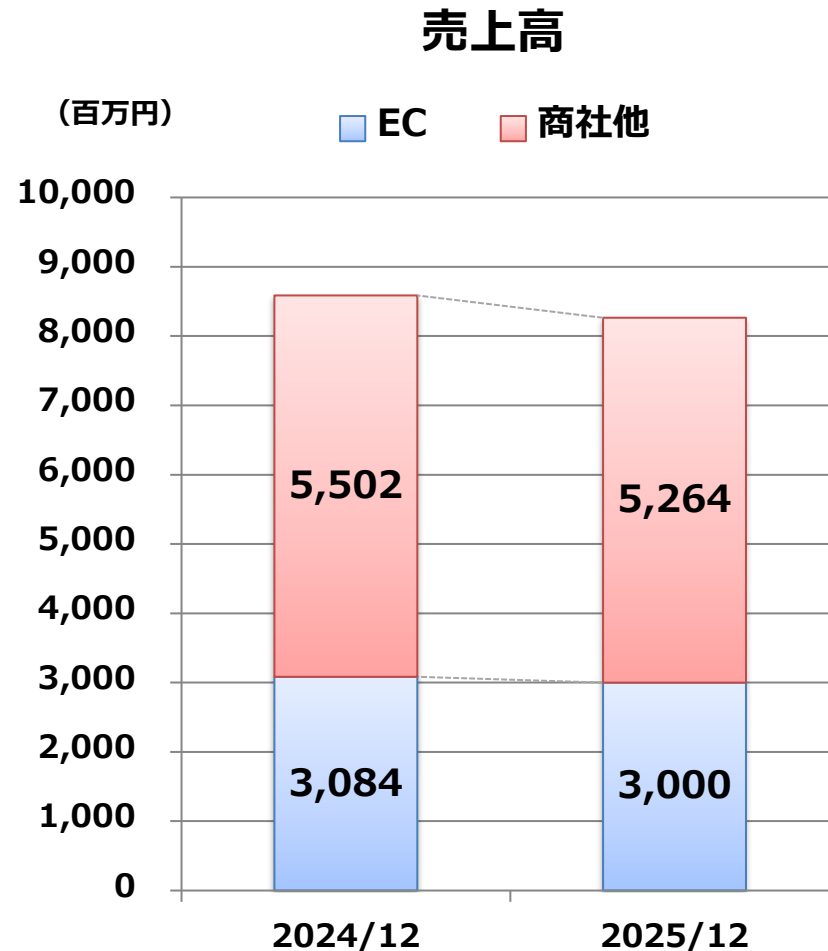
A large, light blue circular arc with two smaller orange circles inside, positioned behind the main title text.


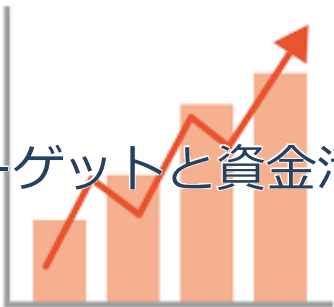


Ⅲ. 投資・コンサルティング事業の状況

- 消費マインドの低下によりEコマース、商社事業ともに販売に苦戦し全体で3.8%の減収となったが、営業利益は商社事業・その他の事業の粗利率改善でカバーし、前年同期比で1.4%増の増益。
- 通期予算達成へ向けて第3四半期は概ね計画通り進捗。



- EC：物価上昇を起因とする消費マインド低下により売上確保に苦戦し、前年同期比で減収減益。
- 商社他：売上高は減収となったが、価格交渉による利益の確保に注力した結果、前年同期比で増益。



<p>1.基本方針</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ニッチ産業への事業承継型M&Aを基軸とし、各事業体の自走とキャッシュ創出を両立。 “分散リスク型”投資ポートフォリオにより、安定成長を実現。
<p>2.中期ターゲットと資金活用</p> 	<div> <div>2025年度</div> <div>2026年度</div> <div>2027年度</div> </div> <div> <div>事業モデルは確立済であり、投資先について引き続き探索中</div> <div>投資先拡大に備え人員増員を行い、借入等で調達した資金を元に投資を実行</div> <div>「時価総額100億円相当のセグメント価値」を実現する成長性と利益を実現</div> </div>
<p>3. 差別化戦略</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 各事業が独自の競争優位性（独自商流、高回転在庫体制、技術連携体制）を保有 M&A後のPMIを通じてグループとしての統合効果を最大化
<p>4. リスクと対応</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 市況変動リスク → 事業分散で吸収 EC競争激化 → 直販・在庫回転強化で対応 素材高騰・規制対応 → 仕入元連携とエコ素材活用

A large, light blue, stylized circular graphic with two orange circles inside, positioned behind the section header text.

IV. 2026年3月期連結業績予想

通期連結業績予想については、創薬支援事業は期ズレ及び試験中止のリスクを、投資・コンサルティング事業は為替動向等の経済環境変化の影響を勘案し、据え置きとさせていただきます。

単位：百万円	2026年3月期 (通期業績予想)	2026年3月期第3四半期 (実績)	進捗(%)
売上高	13,500	9,695	71.8
創薬支援事業	2,200	1,435	65.2
投資・コンサルティング事業	11,300	8,265	73.1
本社・連結調整	—	△5	-
営業費用	13,350	9,590	71.8
創薬支援事業	2,290	1,561	68.2
投資・コンサルティング事業	10,840	7,895	72.8
本社・連結調整	220	133	60.7
営業利益	150	104	69.7
創薬支援事業	△90	△126	-
投資・コンサルティング事業	460	369	80.4
本社・連結調整	△220	△138	-
経常利益	90	93	103.4
親会社に帰属する当期純利益	40	28	70.0



V. その他

上場維持基準への適合に向けた計画に基づく進捗状況

当社は、基準日時点におけるグロース市場の上場維持基準への適合状況は「時価総額」について不適合の状態となっております。東京証券取引所グロース市場における上場維持基準への適合に向け、企業価値の向上により「時価総額の向上」を図ることを基本方針とし、「株価向上」を目指して、各取り組みを進めており、現時点の進捗状況は以下のとおりです。

①業績向上	
取組内容（創薬支援事業）	<ul style="list-style-type: none">・ 価格、研究開発の見直しによる採算性向上、及び適正な人員体制への移行・ 新規サービス（中期及び短期発がん性試験）導入・ 各社の強みを活かした核酸医薬開発支援体制構築を目的とした業務提携
進捗	<ul style="list-style-type: none">・ 連結売上高 9,685百万円（前年同期比1.1%減） 連結営業利益 104百万円（前年同期比230百万円改善）・ 創薬支援事業：売上高 1,435百万円（前年同期比17.2%増）、営業損益 △126百万円（前年同期比203百万円改善）・ 投資・コンサルティング事業：売上高 8,265百万円（前年同期比3.8%減）、営業利益 369百万円（前年同期比1.4%増加）
②株主還元の強化	
取組内容	<ul style="list-style-type: none">・ 有配体制整備のための業績の着実な向上
進捗	<ul style="list-style-type: none">・ 第3四半期以降も業績を着実に改善し、早期復配を目指します
③IR活動の強化	
取組内容	<ul style="list-style-type: none">・ 情報発信の強化：「質」と「量」の両面で強化
進捗	<ul style="list-style-type: none">・ 四半期毎の決算説明動画配信実施・ プレスリリースによる発信：「当社子会社の㈱トランスジェニックにおけるGLP 適合性調査の結果について」「真下教授らによるCRISPR-Cas3システムを用いた遺伝子改変に関する論文が、国際科学雑誌「Nature Biotechnology」に掲載されました」
④その他	
取組内容	<ul style="list-style-type: none">・ グロース市場への上場維持基準への適合を目指しつつ、スタンダード市場への区分変更を申請



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

<https://transgenic-group.co.jp>